

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	留寿都村立留寿都小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	
児童数	17	10	20	17	14	20	0	98	

研究の概要

1. 研究主題

ひとりひとりの確かな学力の向上をめざして  
～指導方法の改善を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

3年生～6年生国語科

- ・すらすら読めるようにする音読の指導法
- ・正しく書けるようにする漢字の指導法

\* 3年生以上の学年では、言語を正しく活用し豊かに表現する能力が劣っていることから、教師の協力的な指導により国語の基礎・基本の習得を徹底することが必要であるため。

3年生～6年生算数科

- ・基礎・基本の確実な定着を図る算数科の指導法
- ・パソコンを活用した授業の工夫
- ・児童が習熟を図る時間の確保と指導技術の改善

\* 3年生以上の学年では、理解の程度に差が見られることから個に応じたきめ細かな指導が必要であるため。

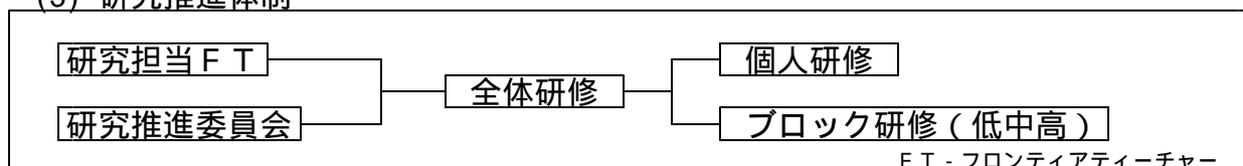
(2) 年次計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着と学習指導の充実を図るための指導方法や指導体制の工夫・改善</p> <p>研究の見通し 学力の実態を把握し効果的なT T方式の指導の在り方について研究を深める。2月には、研究成果の中間発表としての公開研究会を開催する予定である。</p> <p>研究の内容・方法 ・児童の理解の程度に応じた指導方法の工夫・改善(T T方式・指導形態) ・個に応じた指導のための教材開発(情報機器の活用・教材開発)</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 児童の学力の評価を生かした指導方法の改善</p> <p>研究の見通し 児童の変容を客観的に把握するとともに、学力の評価を生かした指導方法の工夫・改善についての研究を深める。</p> <p>研究の内容・方法 ・個別指導やグループ指導などの指導形態の工夫や指導方法の改善 ・習熟の程度に応じた学習を選択できる自己評価の開発 ・学習活動や指導の改善に生かす多面的、多角的な評価の工夫</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・TT方式の指導を通して、個別指導の改善や理解に応じた段階的な学習指導を推進することにより、一人一人の子どもに対して、きめ細かな指導が可能になった。
- ・教育課程や研究を推進する上で、職員の協力体制が整備されてきた。

#### 2. 今後の課題

- ・効果的な習熟度別指導の在り方
- ・児童の学力の評価を生かした指導方法の改善
- ・フロンティア指定校としての研究成果等の発信

#### 学力等把握のための学校としての取組

##### TK式学力検査

- ・子ども個人の学力の向上のための指導資料作成のため
- ・平成15年5月8日～9日 2年～6年(国語 算数)
- ・平成16年1月下旬 6年生(国語 算数)
- 各種テスト、ドリルの実施、ノート内容の把握
- ・学習の習熟度や評価のため
- ・単元終了時及び授業において
- ・3年生～6年生 各担任

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

##### 学力向上フロンティア公開研究会

- ・平成16年2月13日(金) 13:10～ 留寿都小学校
- ・後志管内各小中学校 道央地区フロンティア指定校
- ・平成15年度の研究成果と情報提供
- 成果普及資料の作成(A4版)
- ・資料題名「国語科・算数科におけるTTの実践」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科）  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無